

デジタル・ガーデン

3 室目のグレーディングルーム「Bay-208」オープン マスターモニターに 55 型 4K 有機 EL モニター採用 室内の全員が同一モニターでチェック

(株)デジタル・ガーデンはこのほど、東京・広尾の Head Office 2 階に、Blackmagic Design「DaVinci Resolve」導入の 3 室目のグレーディングルーム「Bay-208」をオープンした。「Bay-208」の新設はグレーディング業務の需要拡大に対応したもので、マスターモニターとしてソニー 55 型 4K 有機 EL モニター「PVM-X550」を採用したのが大きな特徴となっている。大型の業務用 4K 有機 EL モニターを前面に設置し、コントロールサーフェスで作業するカラーリストと隣に着席する撮影監督に加え、ディレクターテーブルやクライアントスペースにいる全員が、同一のモニターで正確な色を確認することができる。これまでマスターモニターとクライアントモニターの 2 台体制で生じていたモニター間の相違を排除することで、よりスムーズなグレーディング作業を推進していく。

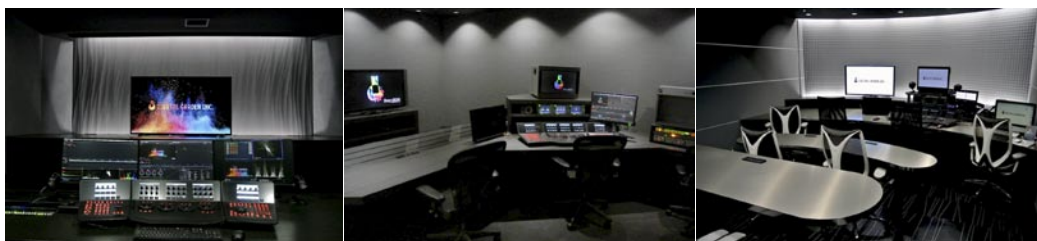


同じモニターを見て、同じゴールに向かう

新設した「Bay-208」は、2012 年 9 月オープンの「Bay-204」、2013 年 9 月オープンの「Bay-304」に次いで同社 3 室目のグレーディングルームとなる。この 4 月に 4 階フロアを増床して Digital Shooting Div. を 2 階から移設し、その空きスペースに「Bay-208」を新設した。

既存のグレーディングルーム×2 室では、マスターモニターに 30 型 4K 有機 EL マスターモニター「BVM-X300」を採用していたが、「Bay-208」ではマスターモニターとして業務用 4K 有機 EL モニター「PVM-X550」を採用し、室内の全員が同一モニターでチェックする体制とした。

Lead Technical Manager の二神真一氏は〈これまで 2 室の稼働でしたが、お陰さまでフル稼働で慢性的に部屋数が足りない状況が続いていました。3 室目を新設するにあたり、本来編集室は内装やデザインでそれぞれ違った特徴を出したとしても、同様の制作環境を構築するのが通例です。しかしながら今回の Bay-208 では、敢えて違った方向性を示したいと考えました〉という。Lead Colorist の石山将弘氏は〈グレーディングの現場で多いのは、マスターモニターで色調整をしても



デジタル・ガーデンのグレーディングルーム＝左から今回新設した「Bay-208」／2012年9月オープンの「Bay-204」／2013年9月オープンの「Bay-304」

「オンエアされるのはこっち（クライアントモニター）なんだよね」という会話で、2つのモニターでいくらキャリブレーションを追い込んでも追い込みきれません。もっとも重要なのは“何が基準なのか”だと思います。この部屋にいる全員が同じモニターを見て、同じゴールに向かうという、とてもシンプルな考え方です」とする。

他編集室でもモニター1台体制を視野に



グレーディングルームのマスターモニターとして「PVM-X550」を採用するにあたって、同社では多くの検証を重ねてきたという。

二神氏（←写真）は「PVM-X550の検証には正直、大きな期待を持っていませんでしたが、BVM-X300と比較して色の精度に遜色が無いことに衝撃を受けました。とくに有機ELモニターで弱点とされてきた視野角の問題も、かなり改善されている印象を持ちました」。

「PVM-X550」は、有機ELの自発光方式ならではの黒の再現性や100万：1以上の高コントラスト／広色域／広い視野角などを実現するとともに、30型4K有機ELマスターモニター「BVM-X300」と同じ高性能な信号処理回路を採用。さらに「TRIMASTER EL」技術による正確な色／正確な画像／高い信頼性で、映像素材の色を高画質かつ忠実に再現・確認できるという。

グレーディングルーム内での設置にあたっては、カラーリストがこれまでのBVM-X300でのモニタリングと同様の大きさ／角度（高さ）になるよう約2.5m離しており、隣に着席する撮影監督からも最小限の視野角で視聴できる。さらに、コントロールサーフェス後方のディレクターテーブル、最後方のクライアントスペースでは床に段差を付け、同じ角度（高さ）で視聴可能だ。

二神氏は「Remote Grading サービスでセッションするCompany3など、欧米のグレーディングルームでもモニター1台が主流です。民生機器を無くし、1台のモニターで目標は1つという方向性を積極的に提案し、他のグレーディングルームや編集室でも採り入れることができればと考えています」とする。



写真左から、クライアントスペース／コントローラー卓に埋め込んだハード／標準光源装置



石山将弘氏



マックス・ゴロミドフ氏



鶴川裕康氏

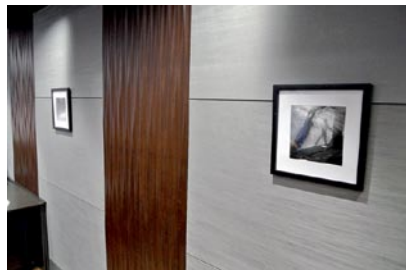
カラーリストは 3 人+アシスタント 5 人が在籍

その一方で、同社ではショールーム等で特定の民生モニターを使ったデジタルサイネージ向けの 4K グレーディング作業も多いという。Bay-208 では PVM-X550 と並列で同サイズのモニターが並べられるよう設置台に奥行きと幅を持たせているほか、設置台下には民生の 4K 有機 EL テレビ BRAVIA「KJ-55A1」も用意している。

コントローラー卓は可能な限りシンプルになるようハードは卓に埋め込み、DaVinci Resolve / 波形モニター / ラスタライザーの各画面は 3 面のモニターにスイッチングで表示できる。また、商品の忠実な色を確認するための標準光源装置も設置している。室内はモノクロを基調とした壁面に木目の床、ディレクターテーブルには大理石を採用、クライアントスペースも足下にブルーのライティングを配して、落ち着いた雰囲気と居住性を重視している。

なお、内装・施工は㈱イリア、システムは㈱東通インターナショナルが担当した。

同社ではカラーリストとして石山将弘氏のほか、エストニア出身で 2014 年に来日したマックス・ゴロミドフ氏、鶴川裕康氏の 3 人が在籍するほか、5 人のアシスタントが控える。さらに、2008 年秋から業務提携している Company3 との「Remote Grading サービス」も引き続き好評という。



Bay-208 の壁には同社カラーリストが撮影した写真が掛けられている。現在はマックス・ゴロミドフ氏撮影による写真だが、今後、持ち回りで変更していくという

Digital Shooting Div. 機材室は 4 階に移設

4 階フロアの増床に伴い、Digital Shooting Div. および Visual Communication Design Dept. が同フロアに移設した。



4 階フロアに移設し拡張された Digital Shooting Div.

2015 年 10 月から稼働を開始した Digital Shooting Div. では、撮影機材として ARRI「ALEXA SXT」「ALEXA MINI」「RED DRAGON」× 2 台を運用、レンズ群として ARRI/ZEISS Master Prime、ARRI/ZEISS Master Anamorphic、ARRI/ZEISS Master Anamorphic Flare set、ARRI/FUJINON Alura 18-80mm、45-250mm 等を有している。また、2PB 容量のプロジェクト共有ストレージ

「Project Server」を運用し、ポストプロダクション部門との一貫したデジタルワークフローを確立している。この4月には新たに3人が入社、DIT×1人／DM×4人体制の技術者を擁している。

なお、別拠点の「DIGITAL GARDEN PLAZA」においてもフロアを改修しており、MA ルーム等の増設が計画されているという。

◇(株)デジタル・ガーデン <http://www.dgi.co.jp/>

「Head Office」

東京都渋谷区恵比寿 2-36-13 広尾 SK ビル TEL03-5791-2215

「DIGITAL GARDEN PLAZA」

東京都渋谷区広尾 5-6-6 広尾プラザ 7F TEL03-5791-5885